日本文学特論（近現代）Ⅱ　　掛野剛史

授業概要

昨年に引き続き、1937 年の日中戦争以降に戦争を取り上げた映画に注目し、文学作品とも関連させながら、戦争を描くことの問題を考える。

表現者にとって戦争とは表現を規制する枷でもあったが、ある意味で想像力を刺激する源泉でもあった。その辺りの具体的な問題を実際の映像表現を見ながら考える。

授業は講義形式で行うが、具体的な映画の鑑賞とその読解、比較などを行う。

毎回、受講者各自の発言を求めたり、課題として、意見や考えを書いてもらったりする。

授業計画

第１回	授業ガイダンス
第２回	戦争と文学、戦争と映画
第３回	プロパガンダという問題
第４回	『上海陸戦隊』（1939）の鑑賞
第５回	『上海陸戦隊』（1939）の考察
第６回	『戦ふ兵隊』（1939）の鑑賞
第７回	『戦ふ兵隊』（1939）の考察
第８回	『ハワイ・マレー沖海戦』（1942）の鑑賞①
第９回	『ハワイ・マレー沖海戦』（1942）の鑑賞②
第 10 回	『ハワイ・マレー沖海戦』（1942）の考察
第 11 回	『決戦の大空へ』（1943）の鑑賞
第 12 回	『決戦の大空へ』（1943）の考察
第 13 回	『雷撃隊出動』（1944）の鑑賞
第 14 回	『雷撃隊出動』（1944）の考察
第 15 回	まとめ
第 16 回	レポート提出

到達目標

①日本近代における戦争表象の問題を映画表現相互の比較や文学表現との比較を通して考えることができるようになる。

履修上の注意

欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。

授業内で実際に映画を観ることになるが、すべて 60 年以上前のものであり、音声映像ともに状態は良くないものが多い。だが実際に映像を観ないことには授業内容を理解できない。映画を観ながら寝ることのないよう、出席にあたっては体調を整えて臨むこと。

日本文学特論（近現代）Ⅰを履修していなくても履修は可能である。

予習復習

【予習】読むべき文献を指示された場合は期日までに読み終え、自分なりの感想、疑問を考えておくこと。
【復習】授業内容を踏まえ、再び作品について考えること。

評価方法

授業における課題（50%）・期末レポート（50%）を目安として評価する。

テキスト

プリントを使用する。